

歌川国員・歌川芳雪・歌川芳瀧『浪花百景』より「生玉絵馬堂」  
 中判錦絵 幕末期 大阪歴史博物館蔵



国員、芳雪、芳瀧らが描いた百景からなる名所絵です。その中には、上町台地上の高台を活かした展望名所の数々や、大坂市中から遠望できた山並みなどの「絶景」が描かれました。

当時の地誌である『浪華の賑ひ』にも、かつて生玉神社(生国魂神社)境内にあった絵馬堂からは、市中の家々は臺の波のよう、河口の帆柱はたけのこが茂るように見えたと記されています。

葛飾北斎「諸国名橋奇覧 摂州天満橋」  
 横大判錦絵 天保期(1830~44) 大阪歴史博物館蔵

葛飾北斎が諸国11か所の名橋を描いたシリーズのひとつです。天満橋は大川に架かる公儀橋(幕府が管理する橋)で、天神橋、難波橋と併せた「浪華三大橋」は、数々の名所絵で取り上げられました。天満宮の祭礼である天神祭の夕景を描いており、橋の下を船渡御の行列が通ります。実際の渡御行列は川下の難波橋から乗船するため、事実とは異なる部分もありますが、先頭をいくのは催太鼓を乗せた船でしょう。橋の上では欄干に祭り提灯が掲げられ、多くの見物人で賑わっています。



耳鳥斎「地獄図巻」

寛政5年(1793) 大阪歴史博物館蔵

大坂の京町堀で酒造業や骨董商を営んでいたと伝えられる、耳鳥斎による地獄図巻です。職業にちなんだ二十六の地獄を描いており、人の営みという身近なテーマを軽妙に皮肉の「笑い」が特徴です。そのうちの一回「歌舞伎役者の地獄」では、鬼が歌舞伎役者であった亡者の口に大根をつっこむという責め苦が描かれています。



(写真は部分)



講演会「近世大坂の名所を読み解く」

【日時】令和4年5月8日(日) 午後1時30分~3時45分(受付:午後1時~)

【講師】上杉和央氏「江戸時代の名所観~ナドコロからメイショへ~」(京都府立大学 文学部准教授)  
 大澤 研一「版本挿絵にみる近世大坂名所の移り変わり」(当館館長)

※詳細は、後日当館ホームページにてご案内します。

学芸員の  
 おすすめ  
 コレクション

大阪市立美術館

上海娘

作者の島成園(1892-1970)は、大阪府堺市出身で、美人画を多く手掛けた女流画家です。京都の上村松園、東京の池田蕉園とともに「三都三園」と称されました。本作は成園が夫の赴任先である上海に同行した際、中国風俗に取材し制作したものです。描かれているのは、旗袍(チーパオ)を身に纏い、まっすぐに下ろした前髪やふっくらとした頬に幼さが残る一人の少女。中元節で使用される蓮形の提灯に小さな赤い蠟燭を立てようと視線を落としています。何気ない一瞬の情景が、エキゾチシズム豊かに表されています。

大阪市立美術館 学芸員 山下真由美

今回紹介した作品は、大阪市立美術館で開催中の特別展「華風到来 チャイニーズアートセレクション」にて公開中です。最新情報はホームページにてご確認ください。

住所 〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82(天王寺公園内) TEL 06-6771-4874  
 FAX 06-6771-4856 ホームページ <https://www.osaka-art-museum.jp/> アクセス 天王寺駅より北西へ約400m



島成園「上海娘」  
 大正13年(1924) 大阪市立美術館

大阪市立の博物館・美術館・動物園 Osaka Museums <https://ocm.osaka>

- 大阪歴史博物館
- 大阪城天守閣
- 大阪市立自然史博物館
- 大阪市立美術館
- 大阪市立東洋陶磁美術館
- 大阪市文化財協会
- 大阪市立科学館
- 天王寺動物園
- 大阪中之島美術館
- 大阪くらしの今昔館